

認知症により混乱した心や行動の障害を理解し、
そのことに適切な対応が出来る
落ち着いた生活やご家族の安心感にも繋がります。

そのような環境の中であれば、
たとえ認知症があったとしても、もてる能力を
発揮し自分らしい生活を送ることが可能です。



作業療法で、できること。

認知症の作業療法 くわしくは <http://www.jaot.org/nihonnokasa.html#id8>

作業療法士 二本の傘 検索

私たち、作業療法士に
ご相談下さい

 一般社団法人岩手県作業療法士会
Iwate Association of Occupational Therapists

お問い合わせ TEL 019-691-1588

Mail iwate-ot@h8.dion.ne.jp



認知症

×

作業療法

病により障害を負うと、
多くの方は「自分の生き方」を見失います。

認知症と作業療法が出会ったら？

認知症の人とその家族を支える作業療法とは…

認知症になると

•脳の働きが低下する

「服を着ることができない」「何度も食事を催促する」「道に迷う」などの症状が出てきます。また、できないことを自覚することで、気分が落ち込んだりイライラする感情も出てきます。



問題行動
機能障害
生活の障害

環境の
問題

自尊心の
低下

作業療法士の
評価・支援

生活行為が可能
生活再建

家族支援
環境を整える

その人なりの
活動・役割



•「できない」の理由によって対応が異なります

脳の機能障害によって見られる症状なのか、心理的な混乱によって見られる症状なのかを見極め、対応を考えます。

•社会や人との関わり

日本はまだ認知症のことをオープンにする社会ではありません。家族は不安や、介護の大変さを抱えたまま日々過ごしています。

•家屋の状況

家の中でもトイレに迷う、便座に座ることが出来ず混乱してしまうことなどがあります。

•物忘れや失敗が多くなると、自分自身が落ち込み、精神的に不安定になります

混乱の中でどうしてよいか分からず、自分を見失っていることが多いです。



•社会や人との関わり

本人・家族の思いを傾聴し、関わりについて助言します。また、日々の大変さを相談できる場所につなげます。

•家屋の状況

認知機能に合わせ、勘違いを少なくする・気付きが増えるような環境調整や工夫をします。例えばトイレが分からなければ、大きく書いた張り紙や、電気をつけたままにするなど。

•個人が長い年月、様々な経験を通して作り上げた感じ方や行為(その人なり)を大切にします

できることをサポートし、役割を持ってもらう。作業療法士は、そうしたお手伝いも行います。認知症という病気があっても、その病でその人らしさが失われることはありません。その人の、感じている思い、気持ちを考えながら支援を行います。